

**全国伝統的建造物群保存地区協議会  
総会・研修会に参加しました**

第三十七回の全国伝統的建造物群保存地区協議会総会と研修会が長野県東御市で行われました。この度、上条が重伝建へ答申されたことを受け、甲州市として協議会に加入しました。

この協議会は、さまざまな情報を収集・蓄積し、これらを会員相互で共有するとともに全国に発信する活動を行っている団体です。

五月二十日～二十二日の三日間にわたり開催された今回の協議会総会と研修会は、長野県東御市にある旧北国街道の海野宿を主な会場として開催されました。

各伝建地区からは、行政関係者や地元住民など約三百人の参加がありました。当日は、まちなみの保存活用方法に関する記念講演や郷土芸能の鑑賞、重伝建地区や国宝建築物の現地視察、行政担当者向け、住民向けの研修や意見交換会などがあり、他地域の現状や取り組みなど、多くの情報を収集できる良い機会となりました。今号ではその様子をお伝えいたします。

なお次回（来年）の協議会総会及び研修会開催地は、石川県加賀市となります。上条の皆様にもご参加していただけます。時期が近くなってきたところでまたお知らせいたします。

**第三十七回 全国伝統的建造物群保存地区  
協議会 総会・研修会**

協議会では、年一回（例年五月頃）に総会と研修会を実施しています。また、全国を六つの地区ブロックに分け、それぞれブロック会議と担当者研修会を実施しています。

甲州市では平成二十二年からブロック会議や総会などに参加させていただいていましたが、今回正式に協議会へ加入しました。



総会の様子



甲州市副市長の協議会加入の挨拶

今回の総会及び研修会は、長野県東御市を会場に行われました。東御市は、旧北国街道の街道である海野宿を擁するまちです。

また、昨年十二月に重伝建に選定された千曲市稲荷山（商家町）の現地視察にも行くことができました。選定後二十八年経過し、様々なまちなみ整備がされた「海野宿」と、選定されたばかりの「稲荷山」を視察することができるといい機会となりました。

※長野県には海野宿を含めた六つの重伝建地区があります。（千曲市稲荷山、塩尻市奈良井宿、塩尻市木曾平沢、東御市海野宿、南木曾町妻籠宿、白馬村青鬼）

**【海野宿の歴史と現在のまちなみ整備】**

海野宿は寛永二年（一六二五）に北国街道の宿駅として開設されました。北国街道は、中山道と北陸道を結ぶ重要な街道でした。明治に入り宿場機能が失われてからは、養蚕の村へと移り変わりました。

昭和六十二年に重伝建の選定を受け、整備されたまちなみは美しく、また、観光施設も点在しており、見て・歩いて、楽しく数時間を過ごすことが出来るまちでした。



伝統的な建造物の意匠「うだつ」



街道の真ん中に水路が通る

**【稲荷山の歴史と現在のまちなみ整備】**

稲荷山は、天正10年（1582）頃に稲荷山城築城に伴って形成されました。慶長3年（1598）の廃城後は、北国西往還の宿場町として賑わいました。

昨年末に重伝建の選定を受けたばかりで、まちなみ整備はこれからの様子でした。



千曲市稲荷山の保存地区内

【海野宿 滞在型交流施設「うんのわ」】

「うんのわ」は、海野宿の中核となる歴史的建造物として広く公開活用することにより、伝統的建造物の理解と文化振興を図り、併せて地域活性化と観光振興に寄与することを目的とし整備された施設です。東御市が建物及び土地の買い取り、改修整備を行い、指定管理者により管理運営されています。

敷地内には母屋、蚕室、物置、土蔵をそれぞれ宿泊棟、レストラン、喫茶店、玄関棟へと改修し活用しています。また、レストランと喫茶店は、宿泊者以外にも自由に入出入りでき、食事や休憩をすることができます。



中庭の休憩スペース



喫茶店のお茶セット

【小学生からの説明】

地元小学生が海野宿各所で説明をしてくれました。地域の歴史について勉強し、一生懸命説明してくれる姿にとっても好感が持てました。将来を担う子どもたちの地域学習も大切なことだと感じました。



海野宿の説明をする地元小学生

上条で絵画教室が開かれています

お見かけした方もおられると思いますが、上条集落内で写生や写真を撮る方が増えてきました。この日、写生をしていたのは、甲府の絵画教室の皆様。四時間ほどで書き上げた、このこと。九月頃に情報館で展示会をしてくれるそうです。その折は皆様も是非足をお運びください。



木造百観音像に彫られている観音様の数をかぞえてみました！

観音堂に安置されている木食白道作「木造百観音像」は、正面から背面に至るまで多くの観音様が掘り込まれています。あるとき、上条集落の見学者に「何体彫られていますか」と質問されましたが答えに困ってしまうことがありました。

これを機に数えてみよう、ということ。百観音像といわれるくらいなので百体に近い数はあるのでは、と数え進めていくと……

結果は、百二体でした。百体を超える数の観音様が彫られているなんて！

数えていると新たに気づくことがありました。ほとんどの観音様は合掌している姿ですが、背面の二体（六三番と九十番）は手に何かを抱えています。また、小さく彫られた観音様もすべて蓮の台座が彫られており、細かいところにまで手の込んだ様子が伺えます。さらに蓮の台座は背面の石造物が入る部分にもみられます。

木造百観音像  
甲州市指定文化財（彫刻）



背面

正面